

## 2018 年度事業報告

2018 年度は定款 4 条に定められた事業を下記の通り実施いたしました。

本協会が実施している助成事業（演劇関係者への助成金交付、海外研修者に対する助成、脚本家養成に対する助成）、普及事業（半額観劇会、学生対象の演劇教室）及び調査事業等の公益事業活動は充実し、演劇の振興と普及を図るという事業目的は達成いたしました。

### I 助成事業

#### （1）演劇関係者への助成金交付

演劇興行および演劇製作に寄与した団体または個人の功績をたたえ、表彰する助成金交付は、内外の推薦を受け、常務理事における審議の結果、本年度は下記の 3 氏および 1 団体が承認されました。表彰式は 2019 年 2 月 26 日（火）午後 2 時から、東京プリンスホテルに理事、監事、委員出席のもと、大谷会長から各表彰者に助成金と賞状を贈呈いたしました。

（受賞者と授賞理由）

##### ① 田口 豪孝 殿

1965 年に東宝演劇部に入社され、以来半世紀以上に亘り、舞台製作の現場を率いてこられました。そのキャリアは日本劇場の現場スタッフから始まり「日劇ウェスタン・カーニバル」等の一大ブームを支え、その後はプロデューサーとして帝国劇場、東京宝塚劇場、芸術座の三座を中心に八千草薫、浜木綿子、浅丘ルリ子らを起用し女流芝居の黄金期の確立に尽力されました。

1987 年 日本演劇界のエポックメイキングとなったミュージカル「レ・ミゼラブル」日本初演の開幕を担い、また、2000 年帝劇公演「ミレニアム・ショック」の製作は、全く新しいエンターテインメントの道を切り拓きました。

これまでの長年の功績を讃え、今後一層の活躍を願って推薦するものです。

##### ② 笠谷マリ子 殿

昭和 51 年の松竹衣裳株式会社入社以来、関西を中心に現代劇から時代劇までの様々なジャンルの商業演劇公演に従事され、その舞台成果の向上に寄与してこられました。

松竹新喜劇公演での故藤山寛美の担当を始めとし、衣裳スタッフとして活躍され、衣裳プランの構築も行い、出演者、演出家からの信頼を得て、舞台芸術を支えてこられました。近年は幅広い知識、技術を後進へ引き継ぐべく、指導、育成に努めておられます。

長きにわたるその功績を高く評価し、今後より一層の活躍を願って推薦するものです。

③ 荻野 清子 殿

東京藝術大学音楽学部を卒業後、数多くの映像や舞台音楽の世界に携わってこられました。2007年、パルコ劇場公演「コンフィダント・絆」、シアタークリエ公演「恐れを知らぬ川上音二郎一座」の舞台で大きな飛躍を遂げ、その後もシアタークリエ公演「ライムライト」やシス・カンパニー公演「日本の歴史」など、活躍は留まることはありません。

オリジナル楽曲の創作のほか、演奏者としても、その時々俳優の芝居の呼吸を汲み取り、巧みな演奏を行うあなたの才能は作品に欠かせない存在であり、演出家や俳優陣から大きな信頼を得ています。映像においても、映画・テレビへの楽曲提供など、その多彩な活躍は、日本アカデミー賞優秀音楽賞に輝きました。これまでの功績を讃え、今後一層の活躍を願って推薦するものです。

④ 株式会社イヤホンガイド 殿

舞台の進行に合わせた音声解説放送を開発し、朝日解説事業株式会社としての昭和51年の設立以来、その普及に努めてこられました。その範囲は歌舞伎から、ミュージカル、オペラに亘り、さらに近年では字幕による解説も開始されるなど、より広範なサービスの拡大に努められております。舞台芸術鑑賞を身近なものとし、その顧客の拡大に大きな貢献をされてこられた事は高く評価されるところであります。

長きにわたるその功績を高く評価し、今後より一層の活躍を願って推薦するものです。

(2) 海外研修への助成

本年度の海外研修は、内外より研修志望者を募り、従来通り各自が日程・行動を自由に設定し、滞在中は各自が責任行動する方法で実施いたしました。協会は往復の航空運賃、宿泊費、観劇チケット代金（上限1名10万円）を助成いたしました。

本年度は計14名が参加し、8名がニューヨーク、4名がロンドン、2名がロンドンおよびパリにおいて研修いたしました。今年度で28回目となり、研修参加者の延べ人数は540名となりました。

(3) 新人脚本家養成のための助成

今年度も引き続き「脚本家養成講座」を開講し、「初級コース」6名、「中級コー

ス」10名、「マスターコース」8名の計24名が受講いたしました。  
通常の講義以外に、外部より講師を招いて特別講義を1回実施いたしました。  
演劇の基盤を広げるためには優秀な脚本が求められます。演劇の脚本は一朝一夕に生まれるものではなく、長期的な養成が必要であります。継続して講座を維持してまいります。

## II. 普及事業

### (1) 半額観劇会

東京都、公益財団法人 東京都歴史文化財団、公益財団法人 都民劇場、大阪府、独立行政法人 日本芸術文化振興会、公益財団法人 名古屋市文化振興事業団と本協会とで共催している半額観劇会は、低価格で質の高い舞台芸術を鑑賞する機会を提供する事業として、都民、府民、市民から幅広く支持され、演劇人口の裾野を広げております。

本年度は、加盟10劇場の協力を得て、東京地区4回、大阪地区6回、名古屋地区2回、福岡地区8回の合計20回実施いたしました。

東京地区	28,207 人	174,622,650 円
大阪地区	49,588 人	286,679,323 円
名古屋地区	2,518 人	23,204,192 円
<u>福岡地区</u>	<u>13,777 人</u>	<u>110,226,700 円</u>
合計	94,090 人	594,732,865 円

なお、2018年4月、東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、公益財団法人都民劇場、大阪府、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人名古屋市文化振興事業団と本協会とは、普及事業に関わる協定書に調印いたしました。また、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人名古屋市文化振興事業団と本協会とは、普及事業に関わる取り扱い手数料について覚書に調印いたしました。

### (2) 学生対象の演劇教室

加盟劇場の観劇と組合せ、学生を対象とした演劇教室を開催し、若年層へ演劇の普及を行いました。

「学生のためのミュージカル教室」を、2018年7月に博多座（参加者130名）にて行いました。

「学生のための歌舞伎教室」を、2019年3月に博多座（参加者100名）にて行いました。

### Ⅲ. 会報の発行

協会の事業及び情報の周知を図るため、会報 54 号、55 号を発行いたしました。会報は会員、賛助会員、所轄官庁、関係団体、演劇評論家、演劇記者、業界紙、舞台関係者等々に配布いたしました。

### Ⅳ. 調査事業

ロンドン劇場協会が作成した加盟 53 劇場で実施された一年を通じたボックスオフィスデータの調査結果とロンドン劇場協会提携会員の 17 の準会員劇場の主要事項を内容としている「Box Office Data Report 2016」を入手し、演劇関係者の参考資料として翻訳、編集しました。

また、ぴあ株式会社が事業委託を受けて作成する「ライブエンターテインメント市場調査報告書」の調査・編集に協力しました。その報告書を入手し、加盟劇場と情報を共有いたしました。

### 報告事項

1. 一般社団法人 日本音楽著作権協会（JASRAC）との音楽著作権料に関する交渉を継続して行う。
2. 委員の異動  
2019年2月 歌舞伎座支配人・橋本芳孝氏就任、吉浦高志氏退任。  
新橋演舞場支配人・真藤美一氏就任、千田学氏退任。  
大阪松竹座支配人・千田学氏就任、市村昌也氏退任。
3. 委員会の開催  
協会加盟劇場の支配人を委員とする委員会は、協会の事業活動方針を審議するために、2018年度は6月、9月、11月、2月の4回開催いたしました。

以 上